



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2006.7

No. 267

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



渡良瀬遊水池への期待

内田孝男（古河市）

埼玉県支部は、「渡良瀬遊水池をラムサール条約登録地に」の署名運動に参加しています。今月号は、当支部の署名運動のとりまとめ役を引き受けている内田幹事が、自分で写した写真とともに、熱い思いを語ります。尚、趣意書と要望書（署名簿）の入手方法、署名活動期間等の詳細は、先月号の連絡帳欄（12ページ）をご覧ください。多くの方々の署名をお待ちしています。（編集部）

昨年4月、渡良瀬遊水池自然観察会（昆虫・植物・野鳥）が実施されました。12月には、昆虫、植物、野鳥、それぞれの道で第一人者の方々の講演会を開きました。

今年2月には、JAWAN（湿地ネットワーク）の浅野氏の講演会とこれからの遊水池についてのディスカッションがありました。

ラムサール会議にオブザーバーで参加された氏は、その講演で

「昨年の秋、ウガンダにて開催されたラムサール会議において、日本での登録地は20箇所を追加登録し33箇所となりました。喜ばしいことではあるのですが、この中には、国立公園等ですでに方向性が決まっていた場所もあります。一方で諫早湾や三番瀬など、重要な場所であるにもかかわらずいろいろな条件に阻まれ、開発の波の前に風前のともし火となっているところもあります。

渡良瀬遊水池についても、環境をはじめ治水・利水の両面からも将来のあり方が検討されているところと思われますが、国内でも屈指の湿地であるこの地は、文化的価値も含めて条約登録されるべきです。そうでなければ、大義名分の名のもと、大規模開発につながり



ノスリ

かねません。地元の皆さんをはじめ自治体の賛同を得て、国政にアピールしていきましょう」と述べられました。そしてその会場で、具体的な効果が必要と考え、署名運動を開始しようということになったのです。

現在、確かにハードルは高いと思われます。しかし、国もこの遊水池の重要性は、3年かけた審議会で十分にわかっていると思います。賢明な利用とはどういうことなのか、将来の利根川水系整備計画策定をして欲しいものです。

そして先月の5月21日（日）にも自然観察会が実施され、私は野鳥グループを案内しました。この催しは、「遊水池が他に例を見ない貴重な場所であることを再確認し、ラムサール登録地になるように、運動の輪を広げよう」という干潟・湿地保護全国キャンペーン「干潟を守る日 2006」の一環で行なわれたものです。

観察会は谷中湖を見ることから始めました。満々とした水が周りの景色を映し出しており、水抜きをした2ヶ月前が嘘のようでした。



オオヨシキリ



ホオジロ

た。その時の泥地と化した湖底で、淡水カモたちが旅立ちを前に集っている姿が思い出されました。今回はカワウのみでした。

その後、史跡ゾーンに移動し、お目当ての3種類、2m近く伸び始めたアシ原に、オオヨシキリ、コヨシキリ、屋敷林の枝にカッコウと、それぞれの姿と囀りを観察しました。スコープを覗く子供の眼が真剣でした。まさに遊水池の風景でした。

参加された皆さんが、ゆっくりと歩いた1時間半の間に、どんな世界を心に描いたのかわかる由もありません。しかし、「野鳥と周りの環境が一体となっているこの光景は、いつまでも変わらないものであって欲しい」と思う気持ちでは、つながったと思います。

渡良瀬遊水池、ここの自然の素晴らしさは、時にふれTV放映や雑誌、新聞等で報道され、訪れた人々は十分に味わって帰られていると思います。100年ほど前に起こった足尾銅山鉍毒事件から時の流れを経て、今では、日本におけるかけがえのない自然の宝庫のひとつになっています。この地がエコミュージアムとして、人々をいつまでも魅了し続けて欲しいものです。ラムサール条約登録地としての名に恥じない所であると、私は思います。



オオタカ

編集部注: 埼玉県支部の探鳥会などでは、「渡良瀬遊水池」という名前で呼んでいます。これは水面だけではなく、その周辺も含めた地域全般を対象と考えているからです。一方、今回の署名活動は、おもに湿地としての重要性を考えることから、「渡良瀬遊水池」と表示されています。

7月9日には、当支部主催の探鳥会が予定されています。詳しくは、行事案内欄8ページをご覧ください。

No.265の続き(質問事項は5月号を参照)

「県内鳥見、年間オーバー100への道」

中川 敏子さん(さいたま市)

- ① 始めてまだ2年目なので、一人では見つけられない。そこで参加して見つけてもらっているという感じ。
- ② 始めて3ヶ月たった頃、見た鳥の数を数えてみたところ100をオーバーしていることが分かって。
- ③ その季節季節に何を見えていないかを意識するようになりました。
- ④ 初めて見る鳥が増えると楽しいです。普通といわれる鳥もまだ見ていないんですよ、例えばアマサギなど。
- ⑤ 日曜日は探鳥会中心、予定は入れない。
- ⑥ まだよく分からない。
- ⑦ 埼玉県支部の雰囲気がいい、望遠鏡でどんどん見せてくれる。

新井 浩さん(さいたま市)

- ① 一人じゃあだめだなと思って探鳥会に参加するようになりました。
- ② 日曜日になるとうれしくて、出かけることが楽しい。
- ③ 申告すると少しは数を意識するようになりました。
- ④ 鳥を見るだけでなく、多くの方と知り合えることが楽しい。
- ⑤ 健康維持に注意しています。
- ⑥ どれも楽しいですよ。強いてあげれば夏ならば木陰のある北本や森林公園がいいです。河原は勘弁してもらってます。秋から冬は、葉が落ちて見渡せて鳥が見やすいですね。

2006年冬 カモ科調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査が実施された1月7日から9日は、冬晴れの日が続いた。

冬鳥の飛来が遅れた2005/2006年冬、総数は前年並であった。県平野部の河川、湖沼のほとんどが狩猟可能地域から除外された結果、カモ類が小規模内水面まで生息する様になり、分散化が定着したと考えられる。谷中湖、坂東大橋下流、昭和沼、狭山湖といったカモの名所の個体数減が著しい。

トモエガモは昭和沼の6羽のみで、去年の31羽も難しい状況となっている。また、今冬の寒さで全面凍結し、全くカモの居ない調査地もあった。

県内31ヶ所、28名の方々の調査に感謝します。

(小荷田行男)

調査地	入間川	荒川						そうが公園	古利根川		利根川	遊水地	狭山湖	調子池	新河原川	百穴湖	八丁湖
調査範囲	豊橋、新富、見橋	荒川鉄橋、戸田橋	金川第一調節池	道調	秋ヶ瀬橋、羽根倉橋	びん沼川、南畑排水機場	荒川大橋、明戸環	玉滝ダム	赤橋、堂面橋	藤塚橋、古利根橋	坂東大橋下流	貯水池	湖全部	池全部	川崎橋、寺尾調節池	大沼	池全部
地域	狭山市	川口市	戸田市	さいたま市	さいたま市	富士見市	江南町	寄居町	草加市	越谷市	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	川越市	吉見町	吉見町
オオハクチョウ							167										
コハクチョウ							93										
マガモ	14		22				93		4		655	1592	168	14	25	93	147
カルガモ	65	35	93	15	31	5	43	43	16		395	159		3	267	47	1
コガモ	54	17	61	8	3	11	23	41			275	10	170	26	104	10	4
トモエガモ																	
ヨシガモ			28						2		38	55			6		
オカヨシガモ	4		25								55		1		20		
ヒドリガモ		54	115			17			51	522	5	153		41	292		
アメリカヒドリ										5							
オナガガモ		1	17	6		1255	78	8			560	8	7	72	21		
ハンビロガモ			11		19		42				2	5		5		17	
ホシハジロ	1		59	4		31	4				13				5	3	
アカハジロ																	
キンクロハジロ	9	15	122	5		104	3				2						
スズガモ																	
ホオジロガモ		1				6					11		3				
ミコアイサ			9			1					1	187					
カワアイサ											12	3					
カモ sp												149					
種数	6	6	11	5	4	9	0	7	7	1	13	9	6	6	8	5	3
合計	147	123	562	38	70	1673	0	244	625	16	2024	2321	350	161	740	170	152
調査者数	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1

調査地	武蔵公園	大沼公園	川越水上公園	公立農林公園	久喜公園	古墳公園	さいたま市	白幡沼	公園池	見沼自然	柳瀬川	黒浜沼	元荒川	遊水池	緑の丘公園	宝蔵寺沼	越川	川島町	調査地
調査範囲	公園内の池全部	大沼	池全部	芳沼	昭和沼	古墳の池全部	沼全部	沼全部	池全部	富士見橋、朱橋	上沼	蓮田	城北大橋、水管橋	池全部	池全部	池全部	八幡沼	川島町	調査範囲
地域	滑川町	江南町	川越市	川本町	久喜市	行田市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	富士見市	志木市	蓮田市	さいたま市	桶川市	松伏町	羽生市	川島町	川島町	地域
オオハクチョウ																	1	1	
コハクチョウ																	128	295	
マガモ	71	1	6	8	453		3	2					560		2	1	3934		
カルガモ	37		105	69	378		5	16	32	46					255	77	2222		
コガモ	21		105	409	45		15	93	33	46			416	1	4	338	2342		
トモエガモ					6												6		
ヨシガモ					8												4	141	
オカヨシガモ				20													2	131	
ヒドリガモ					90					71			4				1489		
アメリカヒドリ					1								46				6		
オナガガモ					2		23	106	7				2			1	31	2205	
ハンビロガモ					3		2		1									112	
ホシハジロ	1		2	46	69		1	2										242	
アカハジロ																		0	
キンクロハジロ				5	434									6				705	
スズガモ																		1	
ホオジロガモ																		1	
ミコアイサ			3		5										2			21	
カワアイサ																		206	
カモ sp																		15	
合計	4	1	5	8	12	0	3	5	6	2	5	4	2	4	2	4	8	130	
調査者数	1	1	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	14223	

野鳥記録委員会の最新情報

●アカアシチョウゲンボウ

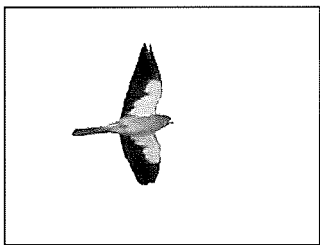
英名 Eastern Red-footed Falcon

または Amur Falcon

学名 *Falco amurensis*

分類 タカ目ハヤブサ科ハヤブサ属

2006年4月27日(木)午後3時半ころ、本庄市坂東大橋下流2km くらいの利根川河原



で森田文三郎氏が撮影しました。

同氏は野鳥の会の会員ではありませんが、

定年後利根

川で鳥見を楽しんでいる方で、「デジカメで飛んでいる鳥を撮影する練習をしていて、燈色の足が目立つ本個体1羽に気付いた、最初に見つけたのは本庄市下仁手の川の上。その後伊勢崎市長沼町の方にも行ったり来たりして、見失うまで約15分間、地上に降りることはなく、遠く小さく飛んでいる姿しか写せなかった」とのことです。

映像を拡大して検討したところ、体や翼の形、下腹・下尾筒・足が赤茶色であること、風切が黒くて下雨覆は白などアカアシチョウゲンボウの特徴に一致し、ほかに間違えられそうな種もないことから、県内初の確認記録(319種目)として県内野鳥リストに加えることにしました。本種はシベリア東部や中国東北部で繁殖し、アフリカ南部で越冬します。日本では、北海道・本州・九州・対馬・沖永良部島などで記録されており、今年5月初めには、舩倉島でも撮影されました。

●アカツクシガモ

英名 Ruddy Shelduck

学名 *Tadoruna ferruginea*

分類 カモ目カモ科ツクシガモ属

2006年5月4日(木)、さいたま市西区昭和、通称大久保農耕地A区で海老原美夫(会員)が



撮影しました。カルガモの群れの近くで、1羽で行動していました。足輪はありませんが、大変人馴れしていて、自動車まで1mまで近づいても逃げないとのこと。数日間観察されました。

委員会としては、アカツクシガモ♀タイプには間違いないが、同種は県内でも多くの施設で飼育されていることが知られていることなどから、籠脱けである可能性を否定できないと考え、前にお知らせしたサカツラガンと同様に、参考記録にとどめることにしました。

日本にはまれな冬鳥として飛来します。県内野鳥リストにはすでに掲載されていますが、記録されているのは、1984年11月12日に渡良瀬遊水地に5羽降りていると栃木県支部から連絡があり、猟期を迎え、ハンターに誤射されないように県自然保護課に指導を申し入れた件(本誌1984年12月号第7号)と、1993年8月26日川越市南古谷の休耕田にカルガモと一緒にいる1羽が写真撮影された件(本誌1996年12月号第116号)の2例です。渡良瀬の例は県内の記録と考えていいかどうか疑問が残りますし、川越の例は、時季などから、今から思えばやはり籠脱けの可能性を否定できないのではないかと考えられます。

●訂正

本誌5月号5ページの本欄、亜種アメリカコハクチョウの記事の中に「カモ目カモ科コクガン属」とあるのは、「カモ目カモ科コブハクチョウ属」の誤りでした。お詫びして訂正します。



野鳥情報

坂戸市西坂戸 ◇3月21日午前6時すぎ、高い鳥の鳴き声で目を覚ます。ガビチョウ1羽が、自宅庭の椿にとまってさえずっていた(増尾隆)。

坂戸市鶴舞樹林 ◇3月24日午前8時頃、ヒレンジャク12羽。久しぶりの飛来で、地上において盛んにヤブランの実を食べていた。99年、01年、02年にも観察記録がある(坂口稔)。

狭山市智光山公園 ◇4月2日、青い空、赤い下腹…アカゲラ♀1羽。4月24日、オオルリ1羽、コサメビタキ1羽、盛んにさえずっていた(久保田忠資)。

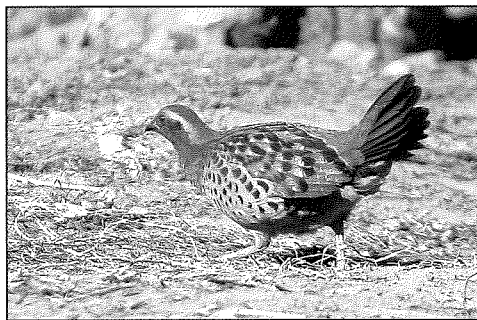
狭山市入間川 ◇4月7日、オオジュリン10羽ほど、たいぶ頭部が黒っぽくなっていた。4月10日、ノビタキ♂♀各1羽。オオジュリン数羽(久保田忠資)。

三芳町地永井 ◇4月17日、畑でキジ♂2羽♀1羽(横山薫)。

熊谷市JR熊谷駅 ◇4月5日、イワツバメが到着(森本國夫)。

川口市戸塚町 ◇4月7日午後2時30分頃、伝右川の川面を飛んでいるツバメ初認(小菅靖)。

三郷市みさと公園付近 ◇4月16日午後3時頃、公園近くの小さな畑でノジコ♂1羽。家族で公園に遊びに来て、近くのコンビニへ弁当を買いに行く途中で、ふいに会えることができました。樹の頂で、さかんにさえずっていました。腹の鮮やかな黄色がしっかりと確認できました。自宅に帰って、鳴



コジュケイ(町田好一郎)

き声をCDで確認しましたが、やはり間違いなくノジコです。なにげない出会いだったので、余計に感動です(猪飼幹太)。

さいたま市岩槻区掛 ◇4月17日、ムナグロ28羽、今季初認。夏羽、冬羽、幼鳥混じり。4月22日、ムナグロ185羽、「ピーヨピーヨピー」とやわらかく鳴き交す。ダイサギ、コサギ、ツグミ、ツバメ。4月25日午前6時30分、ムナグロ153羽。チュウシャクシギ1羽、ダイサギ5羽、チュウサギ1羽、コサギ2羽(本多己秀)。◇4月21日、ムナグロ37羽、アマサギ2羽、チュウサギ7羽など。4月22日、ムナグロ約60羽、キョウジョシギ1羽、アマサギなど。4月24日、ムナグロ約160羽、コチドリ1羽、キョウジョシギ2羽、チュウサギ2羽、タヒバリ5羽、畦で休むエリマキシギ♂1羽、まだほとんど冬羽だが、体下面にポツポツ黒斑が現れていた(鈴木紀雄)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇4月19日、プレーキテストコース南端の木に美しいオオタカ成鳥1羽。ヒレンジャク2羽、アカハラが「キョロン」とぐぜっていた。4月21日、カケス、シメ、アオジ、アカハラと冬鳥ばかりと思っていたら、ヒレンジャクのいたキツタの小さい林でコムクドリ6羽、今季初認。「クィクィクィ…」とアリスイの声。4月24日、カイツブリ、コチドリ(声)、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、キジ(声)、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ウグイス、センダイムシクイ、ヤブサメ(声)、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カシラダカ、ホオジロ、シメ(声)、ツグミ、アカハラ、ツバメ、コムクドリ3羽、カケス(声)、オナガなど。センダイムシクイはあちこちで「チヨチヨビー」と鳴いていて5~6羽いた模様。4月25日、オオヨシキリの「ギョギョシ」が聞こえてきた。コムクドリ20羽+が柳などの新芽にたかっていた。「クルル…」の声を探すとキビタキ♂1羽。4月26日、カイツブリ、カルガモ、コガモ、ダイサギ、コサギ、オオタカ、コジュケイ、コゲラ、ハクセキレイ、モズ、ウグイス、センダイムシクイ、シジュウカラ、アオジ、

ツグミ、アカハラ（あちこちで約10羽、さえずりも）、ツバメ、キビタキ♂1羽、オオルリ♂成鳥1羽、♂亜成鳥1羽どちらもさえずる。コムドリ約10羽、カケス1羽、オナガなど（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区長宮 ◇4月24日、水の入り始めた田んぼでムナグロ15羽、コチドリ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区掛 ◇4月26日早朝、ムナグロ50羽、上空旋回。350羽、地上に密集、「ピーヨピーヨピー」と鳴き交す。ケリ冬羽1羽、当地初認。コサメビタキ1羽、当地初認。タシギ1羽。4月28日早朝、ムナグロ9羽、キョウジョシギ3羽。4月29日早朝、ムナグロ140羽、タカブシギ1羽、コチドリ1羽、ダイサギ、イワツバメ1羽、ツバメ、コジュケイ、オオヨシキリ、ツグミ、セッカ、ヒバリ。4月30日早朝、ムナグロ65羽、コジュケイ♂1羽、キジ♂1羽、コサギ3羽、ダイサギ1羽、目元のブルーが美しい。飾り羽も真っ白（本多己秀）。

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔 ◇4月18日午前7時、ヒヨドリの渡り、約50羽北へ（藤原寛治）。

さいたま市見沼区丸ヶ崎 ◇4月22日、ムナグロ62羽、水の入った田んぼに降りていたが、人と犬におびえて3回飛び立ち、4回目に遠く西に飛び去った。コサギ、ツグミ、ツバメ、セッカ、カワラヒワ、ヒバリなど。4月24日、ムナグロ68羽、チュウサギ夏羽1羽、カエルを捕った。セッカ、ヒバリ、ダイサギ、ツバメ、コジュケイ、セグロセキレイ、ツグミ、ハクセキレイ、タヒバリ3羽、キジ♂1羽など。4月28日早朝、ムナグロ50羽飛立つ、地上に15羽。ヒバリ、セッカ、ツグミ、ツバメ、カワラヒワ、オオヨシキリ（本多己秀）。

さいたま市見沼区上山口新田 ◇4月24日昨日の雨でうっすらと湿った田んぼにムナグロ17羽がじっとたたずんでいた。コチドリが2羽周りを歩き回っていた。4月28日、水を張り始めた田んぼで水を避けるようにムナグロ34羽がゆったりと休んでいた。上空にコアジサシがホバリングしながら何か

を狙っていた（赤堀尚義）。

さいたま市大宮区 ◇4月19日、毎年のように見られる光景だが、JR大宮駅西口そごうデパート付近でチョウゲンボウがカラスにモビングされていた。しかし、その後は見られなくなった（森本國夫）。

さいたま市緑区中野田 ◇4月21日、サッカースタジアム南側に作られた遊水池でタシギ約10羽、コチドリ50羽十、クサシギ6羽が採餌。上空をチョウゲンボウ♂が飛び、スタジアムの屋根の鉄骨傘にとまる。4月24日、同所でタシギ11羽、コチドリ約30羽、クサシギ5羽（鈴木紀雄）。

さいたま市北区日進町1丁目 ◇4月24日、センダイムシクイ1羽、エゾムシクイ1羽。今年初めて。4月25日、センダイムシクイ1羽、シロハラ3羽。コジュケイの鳴き声を今年初めて聞いた。5月1日、エゾムシクイ1羽、センダイムシクイ1羽、キビタキ♂1羽。キビタキはここでは久々に見た。5月2日、センダイムシクイ1羽（森本國夫）。

上尾市上尾霊園北側の江川 ◇4月23日午前7時、葦原でオオヨシキリさえずる。初認（立岩恒久）。

蓮田市黒浜 ◇4月25日、水の入った田んぼでムナグロ約65羽（鈴木紀雄）。

蓮田市蓮田 ◇4月26日早朝、根ヶ谷公園でイカル1羽、大きな声でさえずる（本多己秀）。

桶川市川田谷 ◇4月26日午前9時30分、エゾムシクイさえずる。5月1日午前10時20分、キビタキのさえずり、姿も確認。エゾムシクイ、センダイムシクイさえずる（立岩恒久）。

北本市石戸宿 ◇4月27日、オオヨシキリ1羽。5月1日午前11時、オオヨシキリ4羽、センダイムシクイのさえずり、姿も確認。ガビチョウさえずる（立岩恒久）。

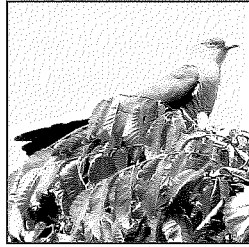
表紙の写真

タカ目タカ科ハイタカ属ツミ

左2羽は巣立ったばかりの幼鳥、右の1羽が母親です。ようやく枝の上で餌を貰えるようになりました。（又部綱仁）



行事案内



カッコウ(落合英二)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

幸手市・宇和田公園探鳥会

期日：7月2日(日)

集合：午前8時30分、宇和田公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線東武動物公園駅東口から、境車庫行き 8:05 発バス、「上宇和田」下車、北に徒歩約 5 分。

担当：中里、宮下、四分一、栗原、植平

見どころ：蒸し暑い日が続きます。鳥の少ないこの時期は、足元の草花なども見ながら中川の土手をゆっくりと歩きましょう。コアジサシの涼やかな舞、コチドリのかわいいしぐさ、托卵を狙うカッコウなども楽しみたいと思います。暑さにめげずにお出かけください。



キビタキ(長野誠治)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11 発、または寄居8:49

発に乗車。

担当：後藤、和田、森本、島田、大澤、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島

見どころ：梅雨空のうっとりしい日々が続きますが、今年も大麻生は若鳥たちでにぎやかでしょう。カルガモの親子、オオヨシキリ、セッカの若鳥も探してみましよう。

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月9日(日)

集合：午前8時25分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時40分、思い出橋駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:20→春日部 7:35→栗橋 7:55→板倉東洋大前 8:16 着。JR 宇都宮線浦和 7:00→大宮 7:07→栗橋 7:41 着で東武日光線に乗り換え。

解散：午前11時45分ごろ、谷中湖北ブロック展望台。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、中里、四分一、植平、鬼塚

見どころ：耳に心地よい声とともに、目に入るさわやかなアシ原。アシ原浄化ゾーンを中心に探鳥します。定番オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイ、カッコウの6種とワシ・タカ類が顔を出せば満足のこの時季。ちょっと蒸し暑いかもしれませんが、タオルと飲み物、そして雨具も忘れずに。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月15日(土) 午後3時～4時ころ
会場：支部事務局 108 号室
案内：袋づめご苦労様です。手を動かしながら、梅雨明け十日の探鳥プランなどご披露ください。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月16日(日)
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤
見どころ：芝川の工事は大道橋に向かって進んでいますが、北宿大橋をはさんだ両側はアシ原が残っています。工事の後でこうした風景が復元することを期待する日々です。出現する鳥は少ないけれど、アシ原で歌うオオヨシキリや、斜面林から聞こえてくるカッコウの声を楽しみに、お出かけください。

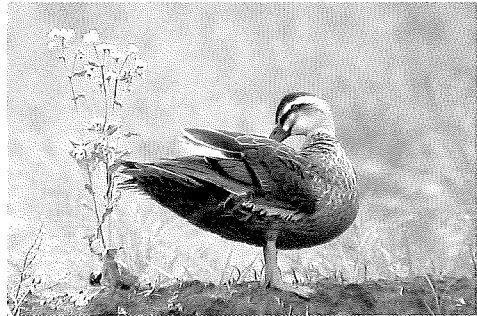


コチドリ(古澤洋子)

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月16日(日)
集合：午前9時50分、森林公園南口前
交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園

南口行き9:25発バスで終点下車。
費用：入園料400円(子供80円)
担当：佐久間、内藤、岡安、藤掛、大坂、後藤、青山、喜多、山田(義)、高橋(優)、藤澤、中村(豊)
見どころ：梅雨が明ければ暑い夏となるこの時季、鳥たちは子育ても終わり、静かになりました。この時季に見られる国蝶のオオムラサキ、山百合などを探して山田大沼まで歩きましょう。



カルガモ(編集部)

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月23日(日)
集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車。
担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)、山口
見どころ：暑い入間の川原でカワセミやササゴイを探し、その後は、稻荷山公園の木陰で涼みながら鳥の情報交換でもしませんか。

●ごめんなさいコーナー

本誌ではありませんが、『野鳥』誌5月号と本部のホームページで、5月21日(日)の三室地区探鳥会の集合時間が、正しくは「8時15分」のところ、「9時15分」と誤って掲載されました。9時15分にもリーダーが待機したら9名の方が参加、なんとか事なきを得ましたが、今後こういうことのないようにいろいろと見直しをしています。



行事報告

2月18日(土) さいたま市 岩槻文化公園

参加：37名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ オオタカ キジ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 開始早々、カシラダカやアオジが水浴び、ツグミも道端にひょっこり現れる。アシ原でオオジュリンを観察。復路ではベニマシコの♀タイプを数人が確認した後、コゲラの頭の赤い部分をほぼ全員が見られて、ベテランのバードウォッチャーからも感嘆の声。最後にオオタカの飛ぶ姿を眺めて終了。満足度の高い探鳥会になった。(長野誠治)

2月18日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：11名

浅見徹、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、工藤洋三、志村佐治、千野安以、檜山大介、檜山秀樹、藤野富代、増尾隆

2月19日(日) 本庄市 坂東大橋

参加：38名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ イカルチドリ ハマシギ イソシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 1時間ほど前の下見で観察したホオジロガモ20数羽の群れを、初めての参加者にも見てもらいたくて牧草地

を突っ切り最短距離で河川敷へ。然し！カモの群れの中に彼らは見られず涙を呑む。途中の灌木の中ではツグミやベニマシコ等が見られ、本流の上空を飛翔するハヤブサは全員で観察出来た。帰路、解体中の旧坂東大橋上流で約40羽のコハクチョウをじっくり観察。メインリーダーが下見で転倒、捻挫状態で本番等、想定外の多い「人間万事塞翁が馬」的な探鳥会であった。(町田好一郎)



2月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：68名 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ハシビロガモ オオタカ パンセグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 鳥が少ない。そんな中で楽しくするのが三室の持味と、鳥をゆっくり観察。ボーイスカウトの子供たちとリーダーが参加。工藤、百瀬の両氏に専属の臨時リーダーを依頼した。(楠見邦博)

2月25日(土) 東松山市 物見山

参加：56名 天気：晴

カワウ オオタカ コジュケイ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 市民の森の野鳥はどこに消えてしまったんだ。トリノに行ったのか、インフルエンザで入

院したのか。下見の時は居ただけだね。来年に期待しよう。(島田恵司)

2月25日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 22名 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ クイナ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 予報がはずれて快晴。シジュウカラだけかとおつばきながら公園の中程へ。コゲラが2羽枝を突付いていた。小滝の池でジョウビタキ♀とツグミを発見。いくらか探鳥会らしくなってきた。カワセミは留守。荒川の土手に上がるも、富士山が見えない。行事案内と違うとの声をかき消すようにジョウビタキ♂とオオタカのお出ましでホッ。これで満足としよう。(大坂幸男)

2月25日(土) 所沢市 狭山湖

参加: 11名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ホオジロガモ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ キジバト コゲラ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ スズメ ハシブトガラス (30種) コース前半の林地では、ツグミ、シロハラ、アオジ等の冬鳥が少なく淋しかったが、湖面のカンムリカイツブリ (200羽超の群れ) は、鮮やかな夏羽の個体が目立って楽しませてくれた。遠かったがミコアイサ♀も確認できた。堤防の北詰めでは、オオタカが捕食したカラスの残骸をノスリが食べる姿を目撃。その後、カラスがカラスを食べるといふ光景まで見られ、自然界の厳しさを実感させられた探鳥会となった。(石光 章)

2月26日(日) 深谷市 仙元山

雨のため中止。

2月26日(日) 富士見市 柳瀬川

雨のため中止。

3月4日(土) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ キジ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) ポカポカ陽気に恵まれ、賑やかな雰囲気の中でスタートした。アシ原ではオオジュリンが忙しそうに餌取りに夢中になっていた。ここでは数が大変多い。環境が合っているのだろう。池の中洲ではアオサギ、ダイサギがのんびりと羽づくろいをしていた。橋のたもとのアキニレの梢ではベニマシコがその華麗な姿を見せてくれ、皆が堪能できた。その後も随所で見られ、この日の主役になった。鳥合わせ直前キジが畑を横切って、派手な衣装で皆を楽しませてくれた。オオイヌノフグリやホトケノザなどが咲き始め、春の息吹が感じられた。

(中里裕一)

3月5日(日) 寄居町 玉淀河原

参加: 67名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ コハクチョウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ オナガガモ トビ オオタカ コジュケイ イカルチドリ クサシギ イソシギ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 荒川の河川敷ではウグイスが春を告げる囀りで迎えてくれた。水面にはカモ類は少なかったが、セキレイが飛び交い暖かい春を感じられた。上流ではカヤックを楽しむ人たちが賑わっていた。鳥見人には残念なことだが、人の楽しみ方は様々だ。景勝地の玉淀ではオシドリの♂♀を皆で見ることができた。お目当てのヤマセミ、カワセミが見られなかった分、皆さんに喜んでもらえて良かった。終了地点の鉢形城址ではアカゲラ、アオゲラも出てくれて、確認種数40。初めてメインリーダーを担当したが、天気も良く、無事に終了できてほっとした。(大澤祐)



キアオジ (ストックホルムにて、手塚正義)



●本部の執行部体制一部変更

柳生博会長による執行部が発足して、早くも一期2年が過ぎました。4月21日付けをもって書面表決による理事会(平成18年度第1回)が開催され、

- 会長 柳生 博
- 副会長 佐藤仁志
- 専務理事 鈴木君子
- 常務理事 吉田 新

の新執行部体制となりました。前期常務理事であった海老原美夫(埼玉県支部副支部長)は、自分の仕事が多忙のため常務理事を退き、理事として執行部を支えることになりました。

●理事会・評議員会を開催

5月27日(土)午前11時から日野市内の鳥と緑の国際センター(WING)で、平成18年度第2回理事会が開催され、新執行部のもと前年度の事業報告、決算案の承認などの議案について議論を交わしました。

同日午後2時30分から、同じ場所で平成18年度第1回評議員会も開催され、前年度の事業

報告、決算案の同意などの議案について話し合いました。前期評議員会幹事会幹事であった橋口長和(埼玉県支部普及部長)は後進に道を譲るために幹事を退きましたが、引き続き評議員をつとめます。

評議員会には、海老原ら6名の理事も傍聴出席し、会議の後は恒例の懇親会で、執行部・理事・評議員・事務局員一体となつての懇談が続きました。

●事務局の予定

- 7月1日(土) 研究部・編集部・普及部会議。
- 7月8日(土) 8月号校正(午後4時から)。
- 7月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 7月16日(日) 役員会(午後4時から)。

●会員数は

6月1日現在 2,303 人です。

活動報告

- 5月13日(土) 6月号校正(海老原美夫・佐久間博文・志村佐治・長谷部謙二)。
- 5月21日(日) 役員会(司会:長野誠治、各部の報告・次年度予算案の見直し・『野鳥』誌など探鳥会案内誤記の再発防止策・その他)。
- 5月22日(月) 6月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

この時期、婚姻色の白鷺たちが見逃せない。目先が赤紫で足の指の赤いコサギ、目先が黄緑で赤みがかった虹彩のチュウサギ、目先が青、虹彩が赤みがかったダイサギ、これらを見つけると得した気持ちになる。(山部) スワロフスキーを連れて、プロ野球セ・パ交流戦を見てきました。明るい視野の中のSHINJOは、カッコよかった。次はSHINJO級の鳥に会いたい!! (みどり)

しらこぼと 2006年7月号(第267号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社